

# もみ殻調整 ほこり対策

もみ殻はタンクなどに保管し、育苗培地や堆肥の水分調整などに利用する農家が多い。タンクの吐出口はシャッターで閉じて、取り出すもみ殻量が調整できる。

同社の片桐敏郎社長が、飛散対策の依頼を受けて開発。「シャッターの開け閉めで、ほこりが舞いやすい。粉体であるもみ殻を取り扱うには、ロータリーバルブが最適だと考えた」と話す。

ロータリーバルブは、粉体や流体を定量ごとに切り出すために用いる装置。開発したのはステンレス製で、長めのスカートを取り付け、ほこりが外部に出にくい構造にした。さらに吸引力が弱い

## 体調不良の原因排除

新潟市で産業用機械を製作する片桐鉄工所は、もみ殻の詰め替え時に発生するほこりを抑える「吸引機能付きロータリーバルブ」を開発した。もみ殻タンクなどの下に取り付けすることで、袋などに詰め替える際、体調不良の原因となるほこりが舞い上がるのを防ぐ。装置を導入した農家では効果を実感。農作業の安全性向上につながる。みる。

新潟の鉄工所



## 二段構えバルブと掃除機

ほこりの舞い上がりを防ぐロータリーバルブ（新潟市で）掃除機をつなげ、二段構えではこりの舞い上がりを抑える。

同市で水稻3・3（みつと）と花きを手掛ける安達翼さん（35）は、もみ殻のほこりを吸い込むと発熱や、せきが止まらなくなるなどの体調不良に悩まされていた。装置を導入してからは、体調を崩すことがなくなった。「農家は体が資本だ。労働安全の観点からも、ありがたい」と効果を認めていた。

ロータリーバルブは受注生産する。問い合わせは同社、電話025（382）3120。